

始良市水土里広域協定 (鹿児島県始良市)

- 鹿児島県の中央に位置し、耕作面積の8割を占める水田を活用した米作を主体とした地域。農業者の高齢化及び後継者不足による農業従事者の減少に加え、中山間地域においては鳥獣被害による営農意欲の低下などの課題を抱えている。
- 農地回りの環境保全、農道・水路の管理、軽微な補修、休耕地の発生状況把握や、解消・防止に取り組んでいる。
- 環境保全活動を地域に理解してもらうため、様々な活動に参加している。

- ・取組面積 : 963.6ha
(田768.0ha・畑195.6ha)
- ・資源量 : 水路 240.8km 農道 139.3km
パイプライン 33.4km
- ・主な構成員 : 農業者、自治会、PTA
- ・交付金 : 約 6256万円(R2)
維持・共同 4235万円
長寿命化 2021万円

活動開始前の状況や課題

- 耕作者の高齢化及び後継者不足による農業従事者の減少等により営農意欲が低下している傾向にあった。
- 環境保全活動に対する地域の理解不足があり、活動参加者が限られていた。
- 農道・水路等の保安全管理が農業者への負担になっていた。
- 事務作業を行う役員の高齢化に伴う負担の増加、役員の担い手不足。

【農用地見回り(状況把握)】



取組内容

- 耕作予定がない土地に、景観植物等を植えることで休耕地を有効活用する。
- 環境保全活動を周知するために地域と共同で様々な行事を行う。
- 事務作業軽減のため、事務所を設置し、事務費を徴収。事務員を雇用し会計、報告等の事務作業を一括で行う。



【地域の活動に参加】

【植栽の様子】



取組の効果

- 未耕作地に植栽することで、景観が改善され、効果が表れている。
- 地域の活動に参加することでコミュニケーションを取る機会が増え、環境保全活動で行う作業に地域参加が増えてきた。
- 事務員を雇用したことで、組織はデータ等を持参することで会計、報告等の事務作業が完了し、負担軽減になっている。



【景観形成活動】

【地域との交流】



きっかけ

農業者の高齢化に伴う後継者不足が農業従事者の減少に加え、営農意欲の減退に繋がっていた。



【農道の除草作業】

Step1 (～H28)

始良市水土里広域協定結成前

- 始良市水土里広域協定結成前は、市内に24の活動組織があり、農地維持活動、資源向上活動を行っている。
- 近年、後継者不足や農業者間の連携、事務の簡素化等が課題になっていた。

【農道の補修作業】



Step2 (H29～)

始良市水土里広域協定結成

- 24組織のうち22組織が協定を締結して、始良市水土里広域協定を結成。
- 事務作業の負担を軽減するため、事務所を設置。事務員を雇用し事務の簡素化に取り組む。



【景観形成活動】

Step3

広域協定の活動

- これまで行ってきた環境保全活動に加え、PTAや女性部と連携して催物を開催している。(農作業体験会や餅つき会等)
- 地域とのコミュニケーションを深めることで活動を理解してもらい、参加人数の増加にも繋がってきた。



【地域の交流活動】

将来に向けて

組織の広域化により、事務作業の負担が軽減したが、当初の課題である高齢化による農業従事者の減少に伴う営農意欲の減退については解決できていない。簡単に解決できるものではないが、地域が纏まりを持って活動していけるように目標設定を行い、少しずつ解決に向けて活動に取り組んでいく。

今後の展望

Step5 (R4～)

活動の更新

- R3年度で5カ年の最終年を迎え、また活動を継続するが、R4からの新たな活動に向けて認定農用地や道路、水路について見直しを行い、地域の意見などを聴取した上で計画を立てていく。広域の良さが出るような形を作りたい。

Step4

広域協定の課題

- 農業者間の連携や交流を目標にしているが、なかなか進まない。広域化以前の単独組織での活動が中心になっている。今後は広域全体で取り組むような活動を行っていきたい。